



山梨大学 新技術情報クラブ



～ コーディネータコラム ～

2018/11/20

【第 30 - 12 号】

本メールマガジンは山梨大学 新技術情報クラブ会員の皆様へ最新情報をお知らせする目的で配信しております。

メール配信を希望されない方は、「配信停止」とお書きの上、ご返信ください。

コーディネータコラム

還田 隆 統括コーディネータ

日ごろお世話になっております。

今回は、平成30年11月15日から17日まで開催されました、テクノICTメッセに出展した内容の報告をしたいと思います。

本学は甲府商工会議所様のご厚意に寄りまして、「甲府商工会議所ものづくり推進コーナー／国立大学法人山梨大学」として展示いたしました。10枚のポスター展示や一部PCによる動画等の公開のほか、アシスト型ビークル（農作物などの運搬荷台つき2輪車）の展示も実物で行いました。

アシスト型ビークルは、機械工学科の野田先生により開発されたもので、坂道を押し上げる際にアシスト力が運搬を容易に致します。さらに、でこぼこの地面で左右に揺れた際には、荷台の上面が常に水平を保つことで荷崩れしなくて済みます。このシステムは、農業用のみでなくいろいろな用途があるかと思いますが、現在販売連携先を探索中です。

また、岡澤先生には、2日目の16日16時よりプレゼンテーションコーナーに於いて、「コンピュータシミュレーションによるモノづくり革新の取り組み」と題して講演頂きました。高額な試作等を少なくしたり詳細な設計チェックができるなどメリット多数ですので、新技術クラブ会員の皆様にもぜひお使い頂きたい技術になります。

これらの他にも、水素・燃料電池や医療関連ものづくりにおける人材養成講座のPRもさせて頂きました。来年度も養成講座を開催する予定でありますので、もし参加したいご希望がありましたら、今の内から予約されることも可能です。

最後になりますが、3日目の17日にはロボコンや青年工業会による家族向け組みひも体験などが行われ、子供たちや学生も多く訪れました。本学コーナーでは、大学の案内をお配りさせて頂き将来の受験生候補にPRさせて頂きました。

では、12月に向けてさらに寒くなって参ります。お風邪など召しませぬようご自愛ください。

---

## インフォメーション 目次

---

- 01： トピックス (1件)
- 02： イベント情報 (1件)
- 03： セミナー情報 (4件)
- 04： 助成事業および公募情報 (3件)



- 01 トピックス (1件)
- 

○【ご支援を！】全国でリピーター続出！身延町特産「あけぼの大豆」を育てるプロジェクトを本学が推進中

本学地域未来創造センターでは、地域貢献に特化したクラウドファンディング「FAAVO やまなし」を実施しております。

今回紹介するプロジェクトは、「身延町あけぼの大豆を守るため、山梨大学に品種の遺伝子解析と土壌状態の研究を依頼したい！」というものです。

支援金は、本学で大豆の遺伝子解析や土壌状態の研究に活用されます。あけぼの大豆の味わいを守ってゆくために、ファンの皆様にお届けす

る

ために、必要な研究です。

あけぼの大豆に関するさまざまなリターンもご用意しておりますので、ぜひ、皆様のご支援をお願いいたします。

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/19976>



## ■02 イベント情報 (1件)

---

### ○農工商マッチングフェア 2019

山梨県商工会連合会・県下 23 商工会は、山梨県及び県内の中小企業機

関、金融機関、J A等と連携し、中小企業者や農林漁業者等が互いの経営資源や地域資源を活用して開発した商品等の商談や販路開拓、取り組みの紹介を中心とした「農商工連携マッチングフェア」を開催します。

日時 平成 31 年 1 月 23 日 (水)

場所 アピオ甲府 本館 1 階

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

[http://www.shokokai-yamanashi.or.jp/info/H30\\_noshokorenkei.html](http://www.shokokai-yamanashi.or.jp/info/H30_noshokorenkei.html)

○製造者向け商談会「ザ・商談！し・ご・と発掘市」の開催のお知らせ  
「ザ・商談！し・ご・と発掘市」は、製造者向けの商談会です。

仕事を受けたい・新規取引先を開拓したい受注希望企業と、外注先を探している等で発注案件をお持ちの発注企業が、具体的な発注案件に基づいて実施する完全事前予約制の受注相談会です。

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

<https://www.tokyo-cci.or.jp/market/shoudan/industry/outline/>



## ■03 セミナー情報 (5件)

---

### ○働き方改革セミナー

将来にわたり日本の労働力人口が右肩下がりにある中、働き方改革に向けた取組は企業の喫緊の課題となっています。「働き方改革」を、人材の確保と定着、そして労働生産性の向上につなげるためのヒントとな

るセミナーです。是非ご参加ください。

日時 平成30年11月28日(水) 14:20~16:40

場所 ホテルクラウンパレス甲府 3F 富士の間

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/archives/9700>

○「働き方改革」実務対応セミナー 派遣活用の留意ポイント

～派遣労働者の期間制限管理や労働時間管理、ハラスメントなどについて～

「派遣労働者」に焦点をあて、実務対応のポイントについて分かりやすく解説いたします。

日時 平成30年12月5日(水) 13:30~15:30

場所 甲府商工会議所 201 会議室

参加費 無料

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

<http://www.kofucci.or.jp/seminar/20181205/>

○中小企業におけるサイバー攻撃対策セミナー

サイバー攻撃に対する備えは、中小企業にとっても避けて通れない経営上の課題になりつつあります。

本セミナーでは、サイバー攻撃の実態や想定される被害、中小企業における体制整備の実態を説明し、中小企業が事前に講じておくべきサイバー攻撃対策のポイント等を解説します。

日時 平成30年12月6日(木) 13:30~16:45

場所 甲府商工会議所 201 会議室

参加費 無料

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

<http://www.kofucci.or.jp/seminar/20181206/>

○IT 導入で生産性向上を図りませんか！

中小・小規模事業者にとって、人材不足の解消を図り且つ生産性の改善や新たな商機を生み出すためには IT 活用が必要です。

本セミナーでは、これらを解決するための IT 活用法について分かりや

すく解説いたします。

日時 平成30年12月12日(水) 18:00~20:00

場所 甲府商工会議所 2階

受講料 無料

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

<http://www.kofucci.or.jp/seminar/20181212/>

#### ○2019 年新春経済講演会

世界各国・日本国内共に政治経済の状況が不安定な中、安定した企業経営を続けていくことは、大変難しいことです。新たな年を迎え日本経済を巡る状況は如何に変化するのか。皆様の経営の参考に資するべく、今年の経済動向を展望する講演会を開催いたします。

演台 2019 年の日本経済の見通し

講師 (株) 三井住友銀行 市場営業統括部

チーフエコノミスト 西岡 純子 氏

日時 平成 31 年 1 月 9 日 (水) 13 : 30 ~ 15 : 00

会場 甲府商工会議所 5 階ホール

聴講料 無料

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

<http://www.kofucci.or.jp/seminar/20190109/>



■04 助成事業および公募情報 ( 3 件)

---

#### ○NEDO 公募

- ・「エネルギーキャリアの製造、輸送・貯蔵、利用を俯瞰した技術評価・分析」に係る公募について

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

[http://www.nedo.go.jp/koubo/NA2\\_100057.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/NA2_100057.html)

- ・「炭化水素燃料等からの二酸化炭素を排出しない水素製造技術の研究開発動向調査」に係る公募について

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

[http://www.nedo.go.jp/koubo/HY2\\_00009.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/HY2_00009.html)

- ・「次世代火力発電等技術開発／次世代火力発電技術推進事業／CO2 排出削減のための要素技術検討」に係る公募について

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

[http://www.nedo.go.jp/koubo/EV2\\_100180.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/EV2_100180.html)

---



- 1) このメールの内容は、提供された会員様限りでご使用下さい。
- 2) メールの内容については国立大学法人山梨大学が著作権を有します。

